世界地圖

造化之妙

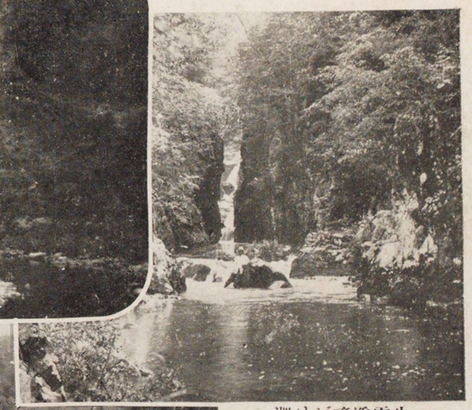
題字 鐵道省運輸局長 種々田虎雄閣下筆

長門峽全溪圖附記

非常に印刷を急いだ爲め校正の上に粗漏を招き斯うした正誤を附記してその過ちを償われねばならぬ事を太く遺憾とするものであります。この繪圖を手にされる方々に先づこの附記を御覽下さる事を希願いたします。

◇雛の壇の位地は舟入の眞下。その下が大谷淵です。
◇獺瀨とあるは『獺淵』の誤りであります。
◇鈴ヶ瀧は『鈴ヶ谷』の誤りであります。
◇佳景淵の位地は高島洞内の對岸下手です。
◇第二斷魚瀑の位置は鶯鶯岩の眞前で白糸瀧はその附近にあります。
◇雪舟橋に近い飛瀑は『野戸呂瀧』と申します。
◇江舟川の合流点は牛若山と鳥帽子岩の間であります。
◇渡場の下手が有名な『金郷出合』である事も附記いたします。
◇渦ヶ瀨は『渦ヶ原』の誤りであります。
◇虎眠ヶ淵さあるは『畦淵』と通稱されてゐます。
◇大藤、佐々連は共に『村』となつてゐますが『字』である事も申述べて置きます。

栃崎口


生雲溪暗が淵

第二斷魚瀑

紅葉橋と第一斷魚瀑

償われねばならぬ事を太く遺憾とするものであります。この繪圖を手にされる方々に先づこの附記を御覽下さる事を希願いたします。

◇雛の壇の位地は舟入の眞下。その下が大谷淵です。

◇獺瀬とあるは『獺淵』の誤りであります。

◇鈴ヶ滝は『鈴ヶ谷』の誤りであります。

◇佳景淵の位地は高島洞内の對岸下手です。

◇第二斷魚瀑の位置は鴛鴦岩の眞前で白糸滝はその附近にあります。

◇雪舟橋に近い飛瀑は『野戸呂滝』と申します。

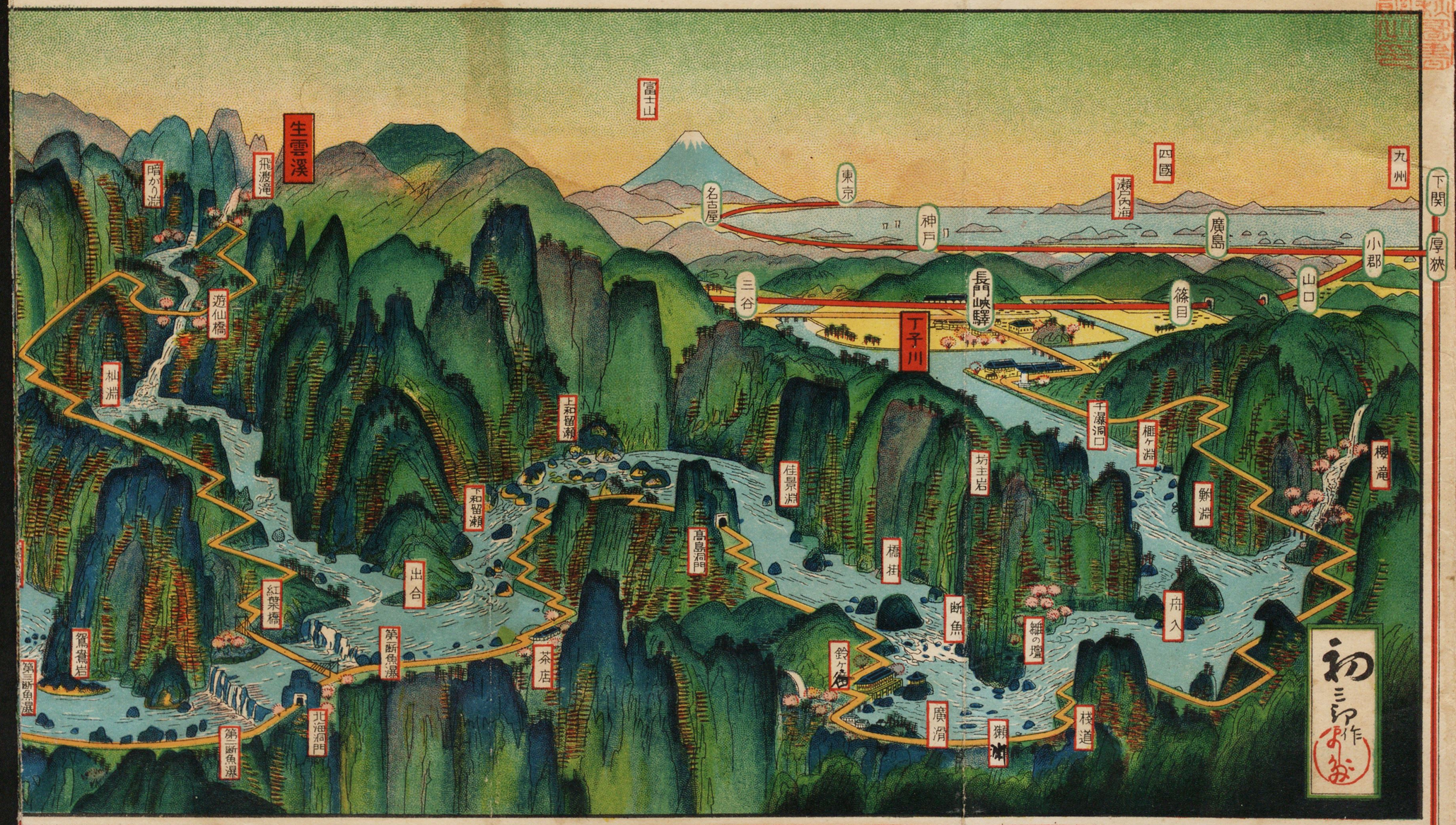
◇江舟川の合流点は牛若山と鳥帽子岩の間であります。

◇渡場の下手が有名な『金郷出合』である事も附記いたします。

◇渦ヶ瀬は『渦ヶ原』の誤りであります。

◇虎眠ヶ淵とあるは『畦淵』と通稱されてゐます。

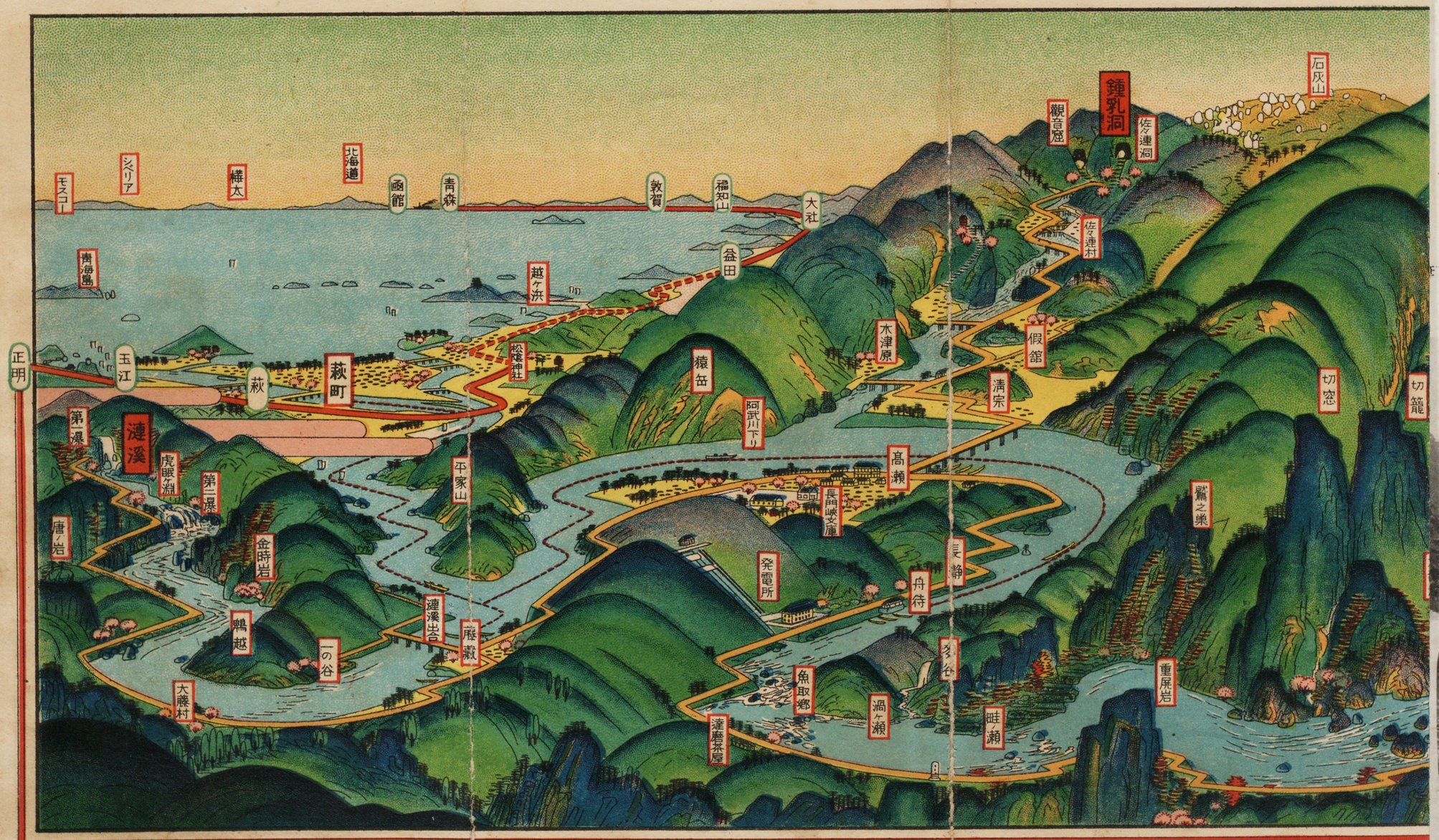
◇大藤、佐々連は共に『村』となつてゐますが『字』である事も申述べて置きます。



生雲溪
富士山
出雲村
大天狗
小天狗
天狗滝
長門焼
栃崎口
牛若山
湯の瀬
聽秋橋
手の淵
龍宮淵
雪舟橋
白糸滝
第三斷魚瀑
鴛鴦岩
盤瀬の滝
暗がり滝
飛瀑滝
遊仙橋
杜淵
紅葉橋
第二斷魚瀑
北海洞門
出合
上和留瀬
下和留瀬
茶店
高島洞門
住景淵
橋掛
名古屋
東京
神戸
三谷
丁子川
鈴ケ滝
廣滑
斷魚

鍾乳洞
観音窟
佐々連洞
佐々連村
石灰山
金郷渓
猿渓大瀑
金松岩
出雲村
大天狗
小天狗
大金槌
金郷門
犬戻
天狗滝
長門焼
栃崎口
假館
清宗
切窓
切籠
猿渓
鷲之巣
六部岩
渡場
渡雲橋
獅子岩
烏帽子岩
牛若山
湯の瀬
聽秋橋
雪舟橋
白糸滝
重屏岩
畦瀬
夫婦岩
取入口
帝釋岩
江舟川
蟹瀬の滝

化之
長局輸運省道鐵 字題
種々日夕虎雄閣下


モスコー
シベリア
樺太
北海道
函館
青森
敦賀
福知山
大社
益田
越ヶ浜
南湾島
正明
玉江
萩
萩町
松陰神社
猿岳
阿武川下り
水津原
清宗
假館
佐々連村
佐々連洞
観音窟
鍾乳洞
石灰山
切窓
切籠
連溪
第瀑
虎眼ヶ淵
第三瀑
唐ヶ岩
金時岩
鵜越
一の谷
大藤村
平家山
連溪岩
藤藏
達磨茶屋
発電所
長門峡文庫
高瀬
舟待
三ヶ静
魚取郷
渦ヶ瀬
畦瀬
鷲之巣
重屏岩

之化
字題 鐵道省運輸局長 種々の虎雄閣下

名勝長門峽案内

大正十一年十二月内務大臣より名勝として指定されたる長門峽は、いまや探遊界の寵兒たらんとしてゐる。

ことわりや、同峽は石英斑岩より成れる阿武川の溪谷であつて、両岸の嶮壁峻峰河床の奇岩及び水蝕の現象、河流の淵潭急流瀑布等相俟ちて美觀を呈して居る。蓋し本邦に於て同岩より成る標式的の峽谷奇岩中、斯くの如く連續して各種萬態の變化ある地貌を呈し風景を成すはその類例を見ないである。その奇怪勇渾壯美の境は到底筆舌彩具をもつて盡し得べくもないが、その中著しきを擧ぐれば下流にある大天狗岩、切籠、切窓、重屏岩であつて、河床には岩骨露出し水蝕の結果種々の奇岩がある。殊に平滑は殆んど水平の節理に沿ひて水蝕され、雛の床は數段を爲して雛壇の如き奇觀を呈してゐる。この他岩面には甌穴その他種々の現象あり、河流は時に淵潭をなし、時には急流をなし、或ひは懸りて斷魚の如き瀧をなす。千瀑洞口、第一第二第三斷魚瀑、畦の瀨等最も著しいもの。しかも**長門峽の四季**は春、水涯到る處紫藤花と躑躅の滿開し夏季は香魚極めて多く河鹿もまた多い。秋は滿山の楓樹と雜樹の紅葉殊に妙にして冬季は多數の鴛鴦を見るの佳境である。

長門峽の概況

長門峽は長門國阿武川の中部にあるが、阿武川は阿武郡嘉年村に源を發し、德佐、地福、篠生、生雲、福川、川上の諸村を經て萩町に達しその末流を日本海に注ぐ。長門峽はその中間、篠原村丁字川より川上村高瀨に至るまでの本流四里と、更に峽内に合する支流生雲溪、金郷溪及び逮溪を合せて七里に亘る峽谷である。これに加ふるに長門峽の下端高瀨の對岸に近く鐘乳洞が發見せられ、この峽谷美と併せ見るの便を得一層の興趣を加ふに至つたのである。

長門峽の五大特色

本峽の開發者である山口縣出身の高島北海醫伯は本峽の五大特色として左の如く擧げてゐる。

一、空氣の變化 長門峽は處女峽である。我等が日常文明的でかつ女性的な風景に慣れた眼をもつて一度本峽中に入れば、神秘的で原始的、かつ男性的な空氣にヒシ〳〵と壓せられる。これ峽中に於ける左の四特色の綜合からなる現象である。

二、石脈の横斷 長州の東北部は石英粗面岩の非常に發達した場所で長門峽の全部がこの石から構成せられ、無數の大石脈は西北に向ふ峽谷を横斷して到る處両崖相對せる奇峰峭壁を形成する。これぞ本峽の美景たなす骨髓であつて本邦に於てこれを他に見ることの出來ない偉觀である。

三、水中の巨岩及石色石理 峽中到る處に屋根の巨岩があり縱横亂錯する間を溪水は縫ふて流下するの狀頗る風致を添へてゐる。石色は概ね青褐色を呈し周圍の樹影水色と掩映甚だ美である。更に注意すべきは岩石の割目即ち石理であつて或ひは縱に或ひは横に、或ひは斜にその變化窮りなくこれがためにその景を雄大ならしめより明麗ならしめてゐる。これは本峽獨占の美であつて、他の峽谷の石色、暗黑色、紫褐色、淡紅赭色等にして石理また見るべきものゝないに比して同日の談てはない。

四、瀑布及淵潭 本峽中には本流支流を通じて瀑布が甚だ多い。これは多數の石脈が横斷せる爲めで概ね高さより幅廣く水勢猛烈である。また巨潭深淵の多きことも他に類を見ざる處である。

五、天然喬木林 峽中到る處、鬱密の喬木林があつて山を蔽ひ水を擁してゐる。これは原始的空氣の充滿せるに想

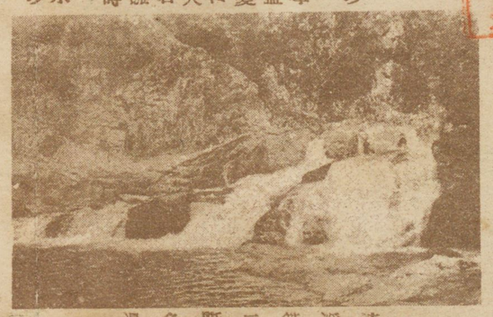
阿武川下り二の瀨と兎岩

金郷溪猿溪大瀑

蟹瀨瀑布

佐々連鐘乳洞奥殿

佐々連鐘乳洞泥中の玉



連溪第二斷魚瀑

時山冨藏氏寄贈

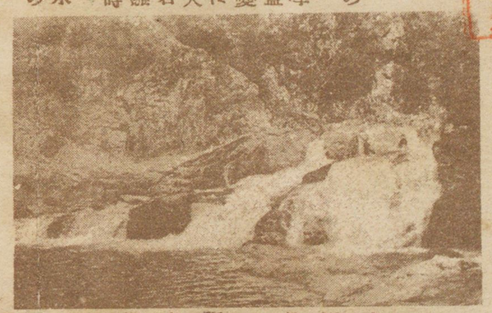
名勝長門峽案内

瀑布

鍾乳洞奥殿

大正十一年十二月内務大臣より名勝として指定されたる長門峽は、いまや探遊界の寵兒たらんとしてゐる。

ことわりや、同峽は石英班岩より成れる阿武川の溪谷であつて、両岸の峭壁峻峰河床の奇岩及び水蝕の現象、河流の淵潭急流瀑布等相俟ちて美觀を呈して居る。蓋し本邦に於て同岩より成る標式的の峽谷奇岩中、斯くの如く連續して各種萬態の變化ある地貌を呈し風景を成すはその類例を見ないである。その奇怪勇渾壯美の境は到底筆舌彩具をもつて盡し得べくもないが、その中著しきを擧ぐれば下流にある大天狗岩、切籠、切窓、重屏岩であつて、河床には岩骨露出し水蝕の結果種々の奇岩がある。殊に平滑は殆んど水平の節理に沿ひて水蝕され、雛の床は數段を爲して雛壇の如き奇觀を呈してゐる。この他岩面には甌穴その他種々の現象あり、河流は時に淵潭をなし、時には急流をなし、或ひは懸りて斷魚の如き瀧をなす。千瀑洞口、第一第二第三斷魚瀑、畦の瀨等最も著しいもの。しかも長門峽の四季は春、水涯到る處紫藤花と躑躅の滿開し夏季は香魚極めて多く河鹿もまた多い。秋は滿山の楓樹と雜樹の紅葉殊に妙にして冬季は多數の鴛鴦を見るの佳境である。



連溪第二斷魚瀑

長門峽の概況

長門峽は長門國阿武川の中部にあるが、阿武川は阿武郡嘉年村に源を發し、德佐、地福、篠生、生雲、福川、川上の諸村を經て萩町に達しその末流を日本海に注ぐ。長門峽はその中間、篠原村丁字川より川上村高瀨に至るまでの本流四里と、更に峽内に合する支流生雲溪、金郷溪及び蓮溪を合せて七里に亘る峽谷である。これに加ふるに長門峽の下端高瀨の對岸に近く鐘乳洞が發見せられ、この峽谷美と併せ見るの便を得一層の興趣を加ふに至つたのである。

長門峽の五大特色

本峽の開發者である山口縣出身の高島北海藏伯は本峽の五大特色として左の如く擧げてゐる。

一、空氣の變化 長門峽は處女峽である。我等が日常文明的でかつ女性的な風景に慣れた眼をもつて一度本峽中に入れば、神秘的で原始的、かつ男性的な空氣にヒシ〳〵と壓せられる。こは峽中に於ける左の四特色の綜合からなる現象である。

二、石脈の横斷 長州の東北部は石英粗面岩の非常に發達した場所で長門峽の全部がこの石から構成せられ、無數の大石脈は西北に向ふ峽谷を横斷して到る處両崖相對せる奇峰峭壁を形成する。これぞ本峽の美景を成す骨髓であつて本邦に於てこれを他に見ることの出來ない偉觀である。

三、水中の巨岩及石色石理 峽中到る處に屋大の巨岩があり縱横亂錯する間を溪水は縫ふて流下するの狀頗る風致を添へてゐる。石色は槇れ青褐色を呈し周圍の綠影水色と掩映甚だ美である。更に注意すべきは岩石の割目即ち石理であつて或ひは縱に或ひは横に、或ひは斜にその變化窮りなくこれがためにその景を雄大ならしめより明麗ならしめてゐる。これは本峽獨占の美であつて、他の峽谷の石色、暗黑色、紫褐色、淡紅赭色等にして石理また見るべきものゝないに比して同日の談ではない。

四、瀑布及淵潭 本峽中には本流支流を通じて瀑布が甚だ多い。これは多數の石脈が横斷せる爲めで概ね高さより幅廣く水勢猛烈である。また巨潭深淵の多きことも他に類を見ざる處である。

五、天然喬木林 峽中到る處、鬱密の喬木林があつて山を蔽ひ水を掩してゐる。これは原始的空氣の充滿せるに想到すべくまたもつて峽中の人跡稀にして近年迄世に顧みられなかつた證左である。其の樣種にクロマツ、アカマツ、モミ、シヒノキ、ツバキ、ヌマゲス等の常綠樹にモミヂ、ケヤキ、ナラ、クリ、シデ、サクラ、ヤマハゼ等の落葉樹と相混生しこれ等の大樹林が一度秋霜を經れば滿山の紅黄赭褐の色、他の常綠樹と相映帶しまたその彩影を碧潭に涵するの美觀は眞に想像以上である。實に紅葉は石と水を得て始めてその美を完成するとされてゐる。本峽の如き大區域の森林で水石との調和を得し場所は、紅葉時季のみにても天下に誇り得るものである。

丁字川

長門峽上端の入口である篠生村字御堂原に出合淵がある。この地点が世界にも稀な丁字川である。阿武川の本流は源を嘉年村に發し、はじめは東南に向ひて流れ德佐村に入り右折して西南に轉じ一直線に流下すること五里。また篠目川は周防國境に源を發して東北に向つて流下すること三里。兩川は出合淵に至つて正面衝突をなし水頭相搏擊し忽ち鋒を西北に轉じ直角に長門峽中に入るのである。これをもつて丁字形をなし地學上輕々に看過すべからざるものとされてゐる。英人ガンドレット氏の說によると佛國ジュラー山中にこの地形がある外世界中稀だとの事である。

佐々連鐘乳洞

は大正十一年一月、長門峽の下端高瀨の對岸十數丁の處に發見された一大鐘乳洞であつて、これが長門峽中にある爲め峽谷美を併せて觀る事の出來る便がある他、到底他洞に見ることの出來ぬ幾多の特色を持つてゐる。即ち洞内に坂あり、門あり更に川や池があり頗る變化に富み石灰洞として各種の狀態をあらわし、石筍の發達は實に日本第一にして殊に泥土上に生ずる石筍に至つては無類である。堅穴また壯觀を極めてゐる。現在では洞の重なるものが二つあつて一を觀音窟といひ一を佐々連洞と云ふてゐる。

探勝道しるべ

第一線 鐵道山口線長門峽驛より入つて萩に出づるもので、長門峽驛に最も便利な順路は左の二つである。

長門峽に入る順路は四ある。しかし全峽を探

金郷出合より望む切籠尖峰

切籠尖峰

ヒノキ、ツバキ、タマケス等の常緑樹にモミヂ、ケヤキ、ナラ、クリ、シデ、サクラ、ヤマハゼ等の落葉樹と相混生し これ等の大樹林が一度秋霜を經れば滿山の紅黄赭褐の色、他の常緑樹と相映帶しまたその彩影を碧潭に涵するの美觀は眞に想像以上である。實に紅葉は石と水を得て始めてその美を完成するとされてゐる。本峽の如き大區域の森林で水石との調和を得し場所は、紅葉時季のみにても天下に誇り得るものである。

丁字川　長門峽上端の入口である篠生村字御堂原に出合淵がある。この地点が世界にも稀な丁字川である。阿武川の本流は源を嘉年村に發し、はじめは東南に向ひて流れ德佐村に入り右折して西南に轉じ一直線に流下すること五里。また篠目川は周防國境に源を發して東北に向つて流下すること三里。兩川は出合淵に至つて正面衝突をなし水頭相搏擊して忽ち鋒を西北に轉じ直角に長門峽中に入るのである。これをもつて丁字形をなし地學上輕々に看過すべからざるものとされてゐる。英人ガンドレット氏の説によると佛國ジュラー山中にこの地形がある外世界中稀だとの事である。

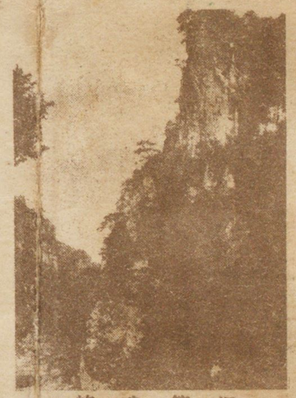
佐々連鐘乳洞　は大正十一年一月、長門峽の下端高瀬の對岸十數丁の處に發見された一大鐘乳洞であつて、これが長門峽中にある爲め峽谷美を併せて觀る事の出來る便がある他、到底他洞に見ることの出來ぬ幾多の特色を持つてゐる。即ち洞内に坂あり、門あり更に川や池があり頗る變化に富み石灰洞として各種の狀態をあらわし、石筍の發達は實に日本第一にして殊に泥土上に生ぜる石筍に至つては珍無類である。竪穴また壯觀を極めてゐる。現在では洞の重なるものが二つあつて一を觀音窟といひ一を佐々連洞と云ふてゐる。

探勝道しるべ

第一線　鐵道山口線長門峽驛より入つて萩に出づるものでは、長門峽驛前に大篠目川を渡り丁字川を見て、千濱河口、樋ヶ淵、廣滑、橋掛、佳景淵、和留瀬を過ぎ紅葉橋をわたつて生雲溪を探り、柚淵淵の頭を渡り、暗がり淵に下り更に飛渡瀧を觀て本路に引返し、第一第二第三の斷魚瀑を過ぎ、雪舟橋を渡つて龍宮淵に出で更に下つて湯の瀬にて聽秋橋を渡り栃崎口にて大天狗、小天狗や牛若山、烏帽子岩、獅子岩などの奇を眺め、金郷出合より右折して金郷溪に入る。大金塊、金松岩、猿溪大瀑等を見て再び前路に歸り、川を渡つて切窓、切窓の峻峰を見て重屏岩から魚取郷に出で高瀬に着きて對岸の鐘乳洞を探りまた高瀬に返り、藤藏より蓮溪を上つて第一第二の斷魚瀑の勝を探り阿武川下りをなして萩町に着くのである。この峽内の道程四里全程七里。全部の探勝には二日を要し途中長門峽驛、湯瀬の、栃崎口、及び高瀬に旅館がある。

第二線　萩町から阿武川を上つて長門峽に右の探勝路を逆行するものである。この他の二は生雲村より長門峽の中央栃崎口または湯の瀬に入るものと佐々並村より蓮溪に入るものとである。

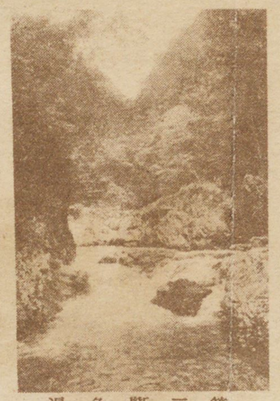
阿武川下り　は長門峽の途次に是非試むべきもので、長門峽の下端川上村高瀬より川舟にて萩に下るを言ふ。この延長四里、長門峽探勝後の輕い疲れを扁舟に托して、風光明眉の両岸に棹し、平氏の遺跡傳説を語りつゝ流れを下るもまた快い限りである。



切龍尖峰

金郷出合より望む切龍尖峰

切窓尖峰



第三斷魚瀑

長門峽の史實と傳説

長門峽は史實と傳説とに富んでゐる　しかもその傳説は飽迄も神秘でまたロマンチックな生彩あるものばかりである。こゝにその一二を錄さう。

書聖雪舟閑居の跡　龍宮淵の左岸に野戸呂川の小流がある。其傍より小路を辿ること約二十丁、山腹に寺屋敷と稱する小さな平地があつて今に時々瓦片を掘り出すことがあるが此地こそ書聖雪舟閑居の地である。昔雪舟は明國より歸つて山口の大内氏に聘せられたが再び入唐の念に堪えず屢々請へども大内氏はこれを許さず、依つて初瀬の觀音（山口の北半里の山中）に祈願した。處が一夜の觀音、夢想に山口より西北方に當り明國に類似する山水あればこの地に尋ね住めとあり遂に探索してこの地を發見したと傳説は殘されてゐる。

龍宮淵の傳説　今は昔この龍宮ヶ淵に程遠からぬ處に住む一獵夫があつたが或る時この淵上に懸ひしが、大龜水上に泛ぶと見る間に美女に變じ、淵より二十丁餘の上流瀨瀬に老獺住みて毎夜この淵に下りわが一族を食ひ殺すからどうかそれを射止めて吳れと哀願したのであつた。獵夫は直ちに瀨瀬に到り一矢のもとに老獺を射殺したが龍王は早速この獵夫を龍宮に招待して多くの寶物を與へ舟を出して送つたと。その舟の着いたところがいまの江舟村でその附近の長者原は獵夫の子孫の住居した處だと傳へられてゐる。

長門峽と附近の名勝史蹟との連絡

◇青海島　萩の西方仙崎灣を形成せる周圍七里の島である。外海に面せる雄大豪壯なる風景は應接に遑なく内灣は眞に明媚の佳境である。萩より周廻船の便がある。

◇美禰鐘乳洞　世界無比と稱せられ長門峽青海島と共に長門三大奇勝の一である。瀧穴、景清穴、大正洞、中尾洞最も著明で、これを探るには青海島を探りて美禰線於福驛に下車するか、または萩より自動車にて直行するもよい。

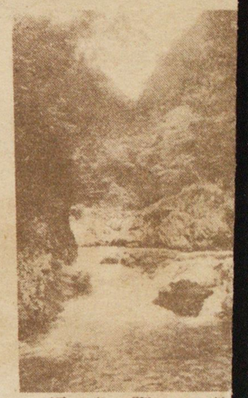
◇湯田溫泉　山口町にある。交通至便にして長門峽との連絡宜しく以て勞を醫し旅塵を洗ふに足るものがある。山口町には大内氏毛利氏及雪舟等の遺跡が多い。

◇史蹟松下村塾と囚幽室　共に萩町松陰神社の傍にありて一は松陰が子弟を教養せる塾趾、一は松陰が海外渡航企劃の罪を得て幽囚せしめられた家屋である。

◇史蹟反射爐　萩町にあり維新前毛利藩に於て築造し製鐵用に供したもの。

◇天然記念物明神池　萩町にある天然鹹水池であつて外海と連絡を絶たれてゐるに無數の海魚が棲息するは眞に世界的の珍現象である。この他萩町は舊城趾その他幾多の史蹟に富み風光また明媚である。

長門峽と附近の名勝史蹟との連絡



第三斷魚瀑　あつたが或る時この淵上に戯ひしが、大亀水上に泛ぶと見る間に美女に變じ、淵より二十丁餘の上流瀨瀨に老獺住みて毎夜この淵に下りわが一族を食ひ殺すからどうかそれを射止めて呉れと哀願したのであつた。獵夫は直ちに瀨瀨に到り一矢のもとに老獺を射殺したが龍王は早速この獵夫を龍宮に招待して多くの寶物を與へ舟を出して送つた。その舟の着いたところがいまの江舟村でその附近の長者原は獵夫の子孫の住居した處だと傳へられてゐる。

◇**青海島**　萩の西方仙崎灣を形成せる周圍七里の島である。外海に面せる雄大豪壯なる風景は應接に遑なく内灣は眞に明媚の佳境である。萩より周廻船の便がある。

◇**美禰鐘乳洞**　世界無比と稱せられ長門峽青海島と共に長門三大奇勝の一である。瀧穴、景清穴、大正洞、中尾洞最も著明で、これを探るには青海島を探りて美禰線於福驛に下車するか、または萩より自動車にて直行するもよい。

◇**湯田溫泉**　山口町にある。交通至便にして長門峽との連絡宜しく以て勞を醫し旅塵を洗ふに足るものがある。山口町には大内氏毛利氏及雪舟等の遺跡が多い。

◇**史蹟松下村塾と囚幽室**　共に萩町松陰神社の傍にありて一は松陰が子弟を教養せる塾趾、一は松陰が海外渡航企劃の罪を得て幽囚せしめられた家屋である。

◇**史蹟反射爐**　萩町にあり維新前毛利藩に於て築造し製鐵用に供したもの。

◇**天然記念物明神池**　萩町にある天然鹹水池であつて外海と連絡を絶たれてゐるに無數の海魚が棲息するは眞に世界的の珍現象である。この他萩町は舊城趾その他幾多の史蹟に富み風光また明媚である。

長門峽四季詠

國東屋府

巨靈壁破古峥嶸　滿峽無厓不創成　青帝亦添粧默趣　巖松奇處著山櫻

斷魚峽口石灘斜　天鱗瀝涼龍女家　蒭年或忘沐餘揷　紅釵化作杜鵑花

危樓生雲蜀道遙　峭巖列出女蘿牆　忽傾巫峽啼猿淚　染盡丹楓墜綿紅

噴珠一瀑萬金鄉　徑展無縫天女裳　欲破端花雪絲色　配將五彩鏞鶯鶯

佐々連鍾乳洞水晶殿

大正十四年三月三日印刷
大正十四年三月十二日發行

復製不許

著作權所有
著作兼發行者　京都市外山科みささき　吉田初三郎

印刷所　大阪市南區順慶町三丁目一五　吉田初三郎先生經營　ベーザイビュー社　電話船場一六〇番

印刷者　大阪市南區順慶町三丁目一五　吉田初三郎先生經營パーザイビュー社理事　小西梶郎

發行所　山口縣萩町　長門峽管理組合

發賣者　萩町東田町　白石信夫　萩町西田町　藤川東輔

074
60
2168

繪に添へて一筆

大正十四年新春

一躍、いまや探勝界の寵兒たらんとしつゝある長門峽の名は、わが名所圖繪完成の大業に對し積年の高配と鞭撻を惜しまれざる恩哲種田虎雄氏がかつて鐵道局長として赴任せらるる前後よりこれを耳にし、その勝を探る機會を待つ事久しきに渉るも、皇太子殿下御外遊記の裝禎、御成婚獻上繪卷軸筆、關東震災地域大鳥瞰圖（大阪朝日附錄）、鐵道省旅行案内揮毫その他各地の名所圖繪執筆及び創作の爲め予の身邊常に繁忙を極め、その宿望を遂げ得ざりしに、這回圖らずも鐵道省當局を通じ長門峽管理組合長より招聘に接し、しかも急囑寸刻の遲滯を恕さず、折柄の年末多忙裡、予は一切筆務を擲つて急行し、同峽開拓功蹟者の一人張氏の懇ろなる東道により全峽くまなく踏査寫生、其了るの日は實に大正十三年も飽に最終盡日の夕であつた。鐘乳洞その他全渓を抱擁する處女峽獨自の雰圍氣は予の魂を恍惚たらしめ群仙の遊境裏に迷入るかと怪しまれ、到底筆舌の盡し得ぬ壯麗なる風光に筆を投じて筆者自身も遠くその及ばざるを深く歎じたのであるが、本書はたゞ探勝の道しるべとしてその使命を果し、世に寸益をもたらすならばこの上もなき欣快事と謂ふべく、切に諸賢の探勝をお奬めする次第である。

水圖繪公刊に際し、恩師鹿子木孟郎先生の慈訓、鐵道省運輸局長種田虎雄氏及び芳賀宗太郎氏の御高配、更に長門峽有志諸氏の多大なる御高配を此處に銘記し深甚の謝意を表するものである。

名古屋市外犬山城日本ライン蘇江々畔の假畫室にて

吉田初三郎